



セントラル画材株式会社

代表取締役社長 なかつ まさふみ
中田 雅文

Profile

昭和48年12月生まれ、52歳。
大学を卒業後、都内で画材販売の仕事を経験し、セントラル画材株式会社に入社。平成26年、父の跡を継ぎ代表取締役社長に就任した。趣味はゴルフや庭の手入れなど。



【優良企業ガイド 2027】TSR企業コード:400633442

セントラル画材株式会社

本 社 / 〒461-0001 愛知県名古屋市中区東1丁目13-25
セントラル・アートビル
TEL:052-951-8998 FAX:052-951-8997
U R L / <https://www.central-gazai.co.jp/>
設 立 / 昭和56年3月(創業:昭和55年4月)

従業員数 / 28名(男性16名、女性12名) 平均年齢39.6歳
売 上 高 / 6億5100万円(令和7年7月期)

街にアートを届ける 創造性と確かな技術力で未来を描く

Q1 自社の魅力は何ですか？

弊社は画材道具の販売からスタートしましたが、現在は徐々に街のアート企画やイベント運営にシフトしています。額装とアートプリントの両方を手掛ける全国的にも珍しいサービスを提供しており、この特徴により多様なアーティストのニーズに対応できることが最大の魅力です。技術面では、高い色再現性を強みとしており、デジタル製版の技術を活用してプリンターの特性や気温による色の变化まで細かく調整。アーティストの意図した色彩や質感の忠実な再現を追求しています。

事業領域は幅広く、建築現場の仮囲いに壁画を施す取り組みや愛知県主導のスタートアップ企業支援施設「STATION Ai」での展示企画など、街にアートを導入する分野で重要な役割を担っています。また、盛岡市の企業と連携し、障がい者アートを世界中からスカウトしてデジタルデータ化。その後アパレルやネクタイ、マグカップなどの商品として展開する事業までつながりました。

さらに、ギャラリー「原画廊」を運営し、作品やグッズの展示販売にも注力。特に、原画はその人気の高さから購入に抽選が必要なほどであり、こうした新しい取り組みが業績向上に繋がっています。

Q2 オフィスの雰囲気はどうか？

社員の自主性を重視した職場環境づくりに取り組んでいます。今年一年で大きく変わったのは現場への業務移管を増やしたことで、社員から提案される企画は積極的に支援。失敗を恐れずに経験を積むことを奨励し、久屋大通のセントラルパークでの展示企画なども若手社員からの提案により実現しました。

人材育成においては、リーダーシップや人間力について

学ぶ機会として社内勉強会を開催。社員がグループに分かれ、将来の社会情勢について考察し発表する場を設けました。相手の意見を否定せず尊重して受け止める姿勢を重視し、多角的な視点を養っています。

また、10年前から新卒採用を開始したことで、年齢層にグラデーションが生まれました。年代や育った環境による多様なアイデアを活用できる環境を構築したことで世代間の良い刺激が生まれ、組織全体の活性化につながっています。

Q3 将来の事業ビジョンは？

会社設立から47年を迎え、50年の節目には社名「セントラル画材」から「画材」の文字を外すことも検討。「セントラル」という名前だけでアート分野の専門企業として広く認知されることを目指しています。

その一環として、持続的な成長を支える組織づくりにも注力。新卒採用を継続することで組織の活性化を図り、現場への業務移管により社員一人ひとりが責任を持って業務に取り組める体制を強化しました。ほかにも、働く上での理念浸透にも力を入れています。大切にしているのは、お客様を想う、仕入れ先やステークホルダーを大事にする、自分たちが成長できることをやる、の三本柱。何か問題がある際は「その意見はお客様が喜ぶのか」を判断基準とし、相手が喜ぶことは自分たちのモチベーションアップと能力向上につながると考えています。

また名古屋のバスケットボールチーム「名古屋ダイヤモンドドルフィンズ」のスポンサーを務め、社員とその家族へ福利厚生として観戦チケットを配布するなど、安心して働ける環境づくりに取り組んでいます。

最終的には、顧客、取引先、社員が共に成長できる企業として、アート業界における独自のポジションを確立できるよう挑戦を続けます。

オフィス1階に飾られた名古屋ダイヤモンドドルフィンズのユニフォーム。デザインも考慮した上、自社のスキルで丁寧に額装を行い、ディスプレイ用としても公開している。



画材をメインに扱っているのは、西館1階にある店舗。併設されたギャラリースペースでは定期的に展示が入れ替わり、県外の作家の作品が飾られることも。

